

# Volunteer Seminar Journal

2015 Spring  
ボランティアセミナージャーナル

## Vol.10

### 学生ボランティア支援室 今後のスケジュール

#### ■ 震災ボランティア スタートアップフェア

日程:4月7日(火)、4月9日(木)、4月13日(月)、4月15日(水)、  
4月22日(水)、4月24日(金)  
時間:各日程17:00~19:00。ただし15日(水)のみ13:00~17:00  
会場:川内北キャンパスC棟(教室は下記ホームページで確認)

本誌10ページ以降で紹介している学内・学外のボランティア団体が一堂に集まる「スタートアップフェア」。震災の風化が危惧される5年目の今だからこそ、ボランティアの力が必要とされています。自分に合った震災ボランティアを見つけてみませんか? 予約不要、途中入場・退室自由です。

#### ■ ボランティア支援室 学生スタッフ説明会

日時:4月14日(火)、4月23日(木)、5月7日(木)  
全日程18:00~20:00  
会場:川内北キャンパス(会場は下記ホームページで確認)

学生ボランティア支援室の主催するボランティアツアーや各種ボランティア支援のイベント等の企画運営に参加する学生スタッフになってみませんか? 「ボランティアを支援するボランティア」である学生スタッフの仕事などを紹介します。

会場確認など  
最新情報はここから

<https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/>

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室ホームページ



#### ■ 4月~5月のボランティアツアー等

下記のツアー参加者を募集します。スタートアップフェアでもツアー内容は紹介します。先着順に切りますので、お申し込みはお早目をお願いいたします。

##### 仙台市若林区被災地スタディツアー

4/11(土)

- 11日9:00東北大学川内南キャンパス集合、同日17:00同所にて解散
- 仙台市内で甚大な被害をこうむった仙台市若林区の被災状況を視察し、地元住民やボランティア団体、仮設住宅自治会長等から被災状況や復興の課題についてお話を聞きます。
- 費用無料、定員:20名、募集〆切:4月10日(金)

##### 石巻市雄勝町ボランティアツアー

4/12(日)

- 12日9:00東北大学川内南キャンパス集合、同日18:00同所にて解散
- 東日本大震災で最も被害が大きかった自治体のひとつ石巻市。その石巻市の中でも人口減少の著しい雄勝町で、仮設住宅入居者を対象にカフェ活動を行います。
- 費用無料、定員:10名、募集〆切:4月10日(金)

##### 陸前高田ボランティアツアー

4/18(土)~19(日)および5/4(月祝)~6(水祝)

- 4月は18日8:30川内南キャンパス集合、19日21:00同所にて解散。
- 5月は4日9:00に川内南キャンパス集合、6日21:00同所にて解散。
- 「奇跡の一本松」で知られる岩手県陸前高田市。なお多くの方々で仮設住宅で生活されています。その復興の現状を視察し、また足湯や手芸などを通して、被災した方々を支援します。
- 費用 4月宿泊費等1,500円。5月は宿泊費等3,000円(予定)※食費は別途必要。
- 定員:どちらも20名、募集〆切:【4月】4月16日(木)、【5月】4月28日(火)

##### 福島ボランティアツアー

4/25(土)~26(日)

- 25日8:00川内南キャンパス集合、26日19:00同所にて解散
- 原発事故により1万人以上が県内外に避難している福島県。ツアーを通して原発事故からの復興の現状を学びます。またいわき市・郡山市の復興住宅・仮設住宅等でボランティア活動を行います(活動先自治体などは変更になる可能性があります)。
- 費用 宿泊費として2,000円 ※食費は別途必要、定員:20名、募集〆切:4月22日(水)

##### 石巻市スタディツアー

4/29(水祝)

- 29日8:45川内南キャンパス出発、17:30同所にて解散
- 石巻市街地の被災地を見学し、地元で活動するボランティア団体の方、復興・街づくりに携わる方のお話をうかがうことを通じて、復興とボランティアの役割について学びます。
- 参加費無料、定員:20名、募集〆切:4月27日(月)

##### 若林区農業復興支援ツアー

5/2(土)

- 2日9:00川内南キャンパス集合、17:00同所にて解散
- 仙台市若林区でボランティア団体「ReRoots」が運営するひまわり畑でボランティア活動を行います。また地元住民やReRootsの方から農業支援・地域復興の課題について学びます。
- 参加費無料、定員:20名、募集〆切:4月28日(火)

#### ツアーへのお申し込み

右のQRコードから申込用のフォーム(<http://goo.gl/DGdXXB>)が読み込めます。

読み込めない方は氏名、参加希望ツアー名を明記しtour.info.tohoku@gmail.comまでメールをお送り下さい。いずれのツアーも定員に達し次第、〆切に関わらず、募集を終了します。



<b>P2</b> ●東日本大震災とボランティア活動	<b>P3</b> ●東北大学による学生ボランティア支援	<b>P4~</b> ●被災3県(岩手県・宮城県・福島県)の現状と学生ボランティアの取り組み
<b>P10~</b> ●学生ボランティア団体の紹介	<b>P12~</b> ●学外ボランティア団体の紹介	<b>P16</b> ●今後のスケジュール







## 東日本大震災とボランティア活動

### 社会を学ぶきっかけとしての「ボランティア」

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地は「人口減少社会」の下での復興という困難に直面しています。また「少子高齢化」「過疎」「地域の基幹産業の衰退」等の構造的課題や、原発事故と除染の課題、復興制度の課題、住民と行政が協力して復興を進めることの難しさなど、被災地のみならず日本社会全体、あるいは国際社会全体で取り組むべき複雑な課題を浮き彫りにしました。

ボランティアとしてこれらの被災地の課題に取り組むことで、社会性と主体的な問題解決能力を身につけた、国際的に活躍できるグローバル人材として成長するきっかけになります。また東北大学で学ぶ専門的な知識がどのように被災地や社会で活用されるか知ることは、自分のキャリアを考える上で、大きな意味を持ちます。



### 5年目の被災地



東日本大震災から5年目となりますが、被災地ではまだ多くの人が仮設住宅等での生活を余儀なくされています。また復興住宅への入居が進みつつありますが、一方で高台やかさ上げ地での自宅再建はまだ先になる見通しです。さらには生活再建の目途が立たず、今後の仮設住宅の統廃合などに不安を抱えておられる方も少なからずおられます。また現地で生活再建をした後も、集落の人口減少や高齢化によりその後の生活に不安を抱えられている方も大勢おられます。岩手県・宮城県・福島県の3県の現状については4ページ以降にまとめています。一方、ボランティアは減り続け、「震災の風化」が叫ばれます。まだまだ様々な分野で皆さんの力が必要とされています。

### 課外・ボランティア活動支援センターと東日本大震災学生ボランティア支援室

発災当初から、多くの東北大学生が積極的に被災地でのボランティア活動を行いました。そして5年目を向かえた現在も、仮設住宅や復興住宅での被災者の支援や、地域復興のための農業・漁業支援等の活動は続いています。こうした学生のボランティア活動を総合的に支援するため、東北大学では2011年6月より「東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室」を設置しています。

また2014年4月より高度教養教育・学生支援機構中の業務センターとして「課題・ボランティア活動支援センター」が設置され、学生



の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、正課・課外で社会貢献型の体験学習を実施しています。さらに、他大学生や海外の学生と、震災やボランティアをテーマとした交流も盛んです。具体的には、次頁のような取り組みを行っています。

## 東北大学による学生ボランティア支援

東北大学では以下の取り組みを通して、東日本大震災に関連する学生ボランティア活動を積極的に支援しています。

### スタートアップフェア

学内・学外のボランティア団体による合同説明会「震災ボランティア・スタートアップフェア」を開催します。4月は6日間開催します(日程・会場は裏面をご参照下さい)。また7月・10月・1月にも開催予定です。



### 被災地でのスタディツアー・ボランティアツアーの実施

被災地の現状と課題を学ぶ「スタディツアー」や、実際のボランティア活動を行う「ボランティアツアー」を実施します。下記の【表】の通り、平成26年度は2月までに39回のツアーを実施しました。平成27年度も同様に実施予定です。これらのツアーに定期的に参加して、被災地に貢献する学生も多数います。本誌16ページで、4月～5月はじめに開催するツアーを紹介しています。

【表】平成26年度中に実施したツアー(平成27年2月末時点、主なもののみ掲載)

実施日	ツアー名	参加学生数	実施日	ツアー名	参加学生数
H26.4.13	若林区被災地スタディツアー	19	H26.8.2~3	福島スタディツアー	11
H26.4.26~27	福島ボランティアツアー	21	H26.8.7~11	陸前高田ボランティアツアー	13
H26.4.29	亙理・山元スタディツアー	35	H26.8.9	東松島夏の農業支援ボランティアツアー	24
H26.4.29	石巻市足湯ボランティアツアー	15	H26.9.11~13	多大学合同被災地スタディツアー	10
H26.5.3	若林区農業復興支援ツアー	26	H26.9.16~18	福島スタディツアー	13
H26.5.4~6	陸前高田ボランティアツアー	25	H26.9.27~28	南三陸町ブルーーツーリズム	16
H26.5.10	東松島春の農業支援ボランティアツアー	15	H26.11.21~24	陸前高田ボランティアツアー	13
H26.5.31	石巻足湯ボランティアツアー	10	H26.12.13~14	福島ボランティアツアー	15
H26.6.27~29	陸前高田ボランティアツアー	18	H26.12.20~21	石巻市雄勝町ボランティアツアー	18
H26.6.29	山元町スタディツアー	19	H27.2.7~8	石巻市雄勝町復興まちづくりツアー	15
H26.7.5	若林区復興視察	22		その他のツアー(17回合計)	111
H26.7.5~6	福島ボランティアツアー	13		合計	497

### 正課授業や「グローバルリーダー育成プログラム」との連携

基礎ゼミ「地域復興とボランティア活動」(平成27年度前期 Semester)および全学教育科目「震災復興とボランティア」(同後期後期 Semester)では、実際のボランティア活動への参加が授業の一環に組み込まれています。

また、被災地でのボランティア活動は、「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)」のポイントとしても認定されます。詳しくはTGLのサイト(<http://tgl.tohoku.ac.jp/>)をご覧ください。

### 情報提供・相談活動

本学学生へのボランティア活動についての情報提供のため本誌・ボランティアセミナージャーナルを定期的に発行しています。またWebサイトやメール配信サービスでも情報提供を行っています。またボランティア活動に関する相談について、専門のスタッフが対応いたします。何でも気軽に相談して下さい。窓口などは、本誌裏面をご覧ください。

### 各種イベントの開催

被災地でのボランティア活動に関する講演会や講習会、報告会なども開催します。また東北大学生ボランティア同士の交流会のほか、他大学生や、海外の大学生と、震災やボランティアをテーマにした交流会なども実施しています。



### ボランティア支援室・学生スタッフ募集

上記のツアーや、各種イベント等の大学主催プログラムは東日本大震災学生ボランティア支援室の「学生スタッフ」が参加して企画・運営されています。各団体や被災地の状況を広く学びながら、被災地と学生双方のニーズを踏まえた企画を皆さん自身で実施してみませんか?

関心のある方は、4月～5月に行われる「スタッフ説明会」に参加してみてください。

学生ボランティア支援に関するホームページ

- 東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター [http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page\\_id=7395](http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395)
- 東日本大震災に関する学生ボランティア支援 <http://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/volunteer/01/volunteer0101/>
- 東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室 <https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/>



# 岩手県

東北大学では2012年より、陸前高田市で学生ボランティア活動を展開しています。ここでは主に、陸前高田市の状況と、そこでの東北大学生ボランティアの活動を取り上げます。

## 陸前高田市の被災状況

陸前高田市の市役所や商業施設が集積していた平野が13mから17m以上の津波に襲われ、1,735名の方が亡くなり、3千戸以上の家屋が被災しました(2012年10月陸前高田市発表)。

避難場所に指定されていた市民体育館(写真左)や市民会館が全壊。避難していた市民の多くが亡くなりました。また市役所の浸水により、一時的に行政機能が停止状態となりました。

また広田湾沿いに7万本の松林が2km続く「高田松原」がありましたが、ほとんどが津波でなぎ倒されました。その中で、一本だけ倒れずに残ったのが「奇跡の一本松」(写真右)です。



## 復興の現状

陸前高田市には2,168戸の仮設住宅が建設され、2015年3月現在も津波で家を失った方の多くがそこで生活しています。災害復興公営住宅は2014年秋から2016年にかけて1,000戸が入居可能になります(一部、入居済)。現在、巨大なベルトコンベヤーにより工事が進んでいますが、高台やかさ上げ地での住宅再建にはまだ時間がかかります。後、数年間は仮設住宅での生活が続く方々も多くいます。



## 被災した方々の声

仮設住宅での足湯や手芸のボランティア活動を通して、被災した方々から被災経験や現状の課題についてお話を聞きます。以下、その一部を紹介します。



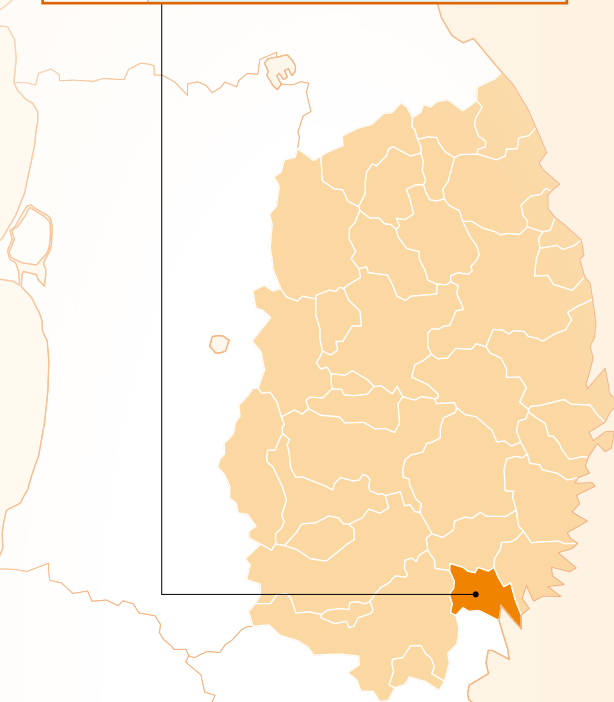
ここ(復興住宅)ではドアを閉めるとひとりっきりになってしまう。何とも言えない孤独感がある。男らしくないことというけど、泣きたくなる。一人でいるとたまらない思いがする。(70代男性、2014年11月)



津波でひざまで水につかった。夫は頭まで。息子は何とか助かったものの、手をつないでいた人の手を離してしまい、波にのまれてしまった人のことを後悔している。(80代女性、2015年2月)

死者数(震災関連死含む)	5,122名
行方不明者数	1,129名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	25,713戸

岩手県総務部総合防災室 平成 27年2月28日現在



## 東北大学生の取り組み

東北大学では、2014年度中に合計9回の「陸前高田ボランティアツアー」を実施し、以下のような活動を行ってきました。

### 仮設住宅・復興住宅での被災者との交流

仮設住宅や復興住宅の集会所で、被災された方々と交流しています。その目的は、交流を通してお話を聴き被災された方々にリラックスしてもらうことです。そこで過去にあった辛いことを話して少しでも心を軽くしてもらえればより嬉しいです。その手段として、主に足湯と手芸を行っています。

女性は手芸の折り紙やぬいぐるみ作りをされる方が多く、その一方で、男性は将棋やオセロなどのボードゲームをする傾向があり、一つの空間の中でバラエティーに富んだ交流をしています。最近ではカラオケを導入したこともあり、集会所はさらに賑やかになりました。学友会落語研究会の方に、落語をしてもらうこともあります。帰り際に住民の方が言ってくれる「楽しかったよ。また来てね」の一言が、「また来よう」と思わせてくれるモチベーションです。この活動で被災地の方々が1日も早く元気になることを願っています。



仮設住宅で落語を披露する東北大学生

### 地域の復興に関する活動

仮設住宅や復興住宅以外の陸前高田市の地域社会も、被災で大きなダメージを受けました。そうした地域で、一時は途絶えてしまった子ども会の支援として、小中学生を対象としたレクリエーションや学習支援の開催をしました。また、毎年8月7日には震災前からの陸前高田市伝統のお祭り「うごく七夕」において「よいよい」と声を合わせ、地域の方々と山車を引いて市内を周り、1月には「しまい」の獅子の代わりに虎を被って地域の家の悪魔祓いをする「とらまい」で、虎や踊り子として学生が参加しお手伝いします。震災の影響や高齢化により、こうした地域行事の存続も難しくなっているのです。また専門家の先生をお招きした防災に関するワークショップの実施等を通じて、復興まちづくりについても住民と一緒に考えています。



8月7日の動く七夕。電飾された山車をひっぱる

#### ツアー参加者の声

自分が立っているところに数十メートルの津波が来たことが信じられませんでした。仮設住宅の足湯・手芸体験は住民の方の生の声が聞けてすごく考えさせられるものでした。被災者のみなさんは震災のことが忘れられてしまうことをとても恐れていたもので、帰ったら周りの人や家族に今回のボランティアのことを伝えていきたいです。(文学部1年)

#### ツアー参加者の声

初めてのボランティア活動でしたが、被災地の皆さんの明るさと優しさに、逆に勇気もらいました。ボランティアとして何かしなければと思っていましたが、実際に訪問し、お話をさせていただいて皆さん喜んでくれたのが印象的でした。実際に被災地に足を運んでみる大切さを感じました。(文学部3年)

東北大学生の陸前高田市での活動は、東北大学陸前高田応援サークル「ほかほか」のブログ等でも発信中!  
BLOG: <http://ameblo.jp/poca-2/> Twitter: @poca\_2



# 宮城県

死者数(震災関連死含む)	10,530名
行方不明者数	1,255名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	238,119戸

宮城県震災復興政策課 平成 27年1月31日現在

豊かな漁港と農地を有する宮城県。

震災時、北部では20メートルを超える津波が押し寄せ、南三陸町、女川町などの市街地は壊滅的な被害に見舞われました。県南の平野部では、国道6号線沿いまで津波が押し寄せ、広大な農地・港湾施設等が被害を受けました。

宮城県では現在でも35,332名が応急仮設住宅で、32,503名が民間アパート等を借り上げた「みなし仮設住宅」で生活しています(宮城県発表、平成27年1月31日現在)。

## 復興とボランティア 4年間のあゆみ

震災からの4年間で、大学生によりあるいは社会人により様々なボランティア活動が行われました。役割を終えた活動もあれば、5年目の今だからこそ必要になる活動もあります。宮城県内で東北大生ボランティアが活動した地域をいくつかとりあげ、そこでの活動のあゆみを振り返ります。



2013年2月 若林区でのReRootsの活動

### 仙台市

大津波では仙台市の農地の40%が冠水。行政とボランティアの力により瓦礫撤去と農地再生が行われています。震災復興・地域支援サークルReRootsは2011年より仙台市若林区で農地の瓦礫撤去に着手。現在では撤去はほぼ終息し、被災農家の作った野菜の移動販売や、貸農園の運営、人の往来を作り出すツアーの企画など、多様な活動に取り組んでいます。

仙台市内の仮設住宅では様々な団体が学習支援を行っています。被災により学校が休校になり、勉強が遅れてしまったことがきっかけでした。その後も環境の変化に直面する子供たちを支えています。



2011年4月 山元町(写真提供:HARU)

### 山元町

海沿いに平野が広がり、いちご栽培が盛んな山元町は、津波が町の約半分の地域を飲み込み、住宅地・農地に大きな被害がありました。その山元町に、東北大学地域復興プロジェクト「HARU」が、まだ大学が再開していない4月の間、1日あたり約40名(延べ1,000名)のボランティアを山元町に派遣し、炊き出しや民家の泥かき、避難所の手伝いなどを行いました。その後、いちご農家支援などを経て、現在では仮設住宅で足湯や清掃活動等のボランティア活動を行っています。

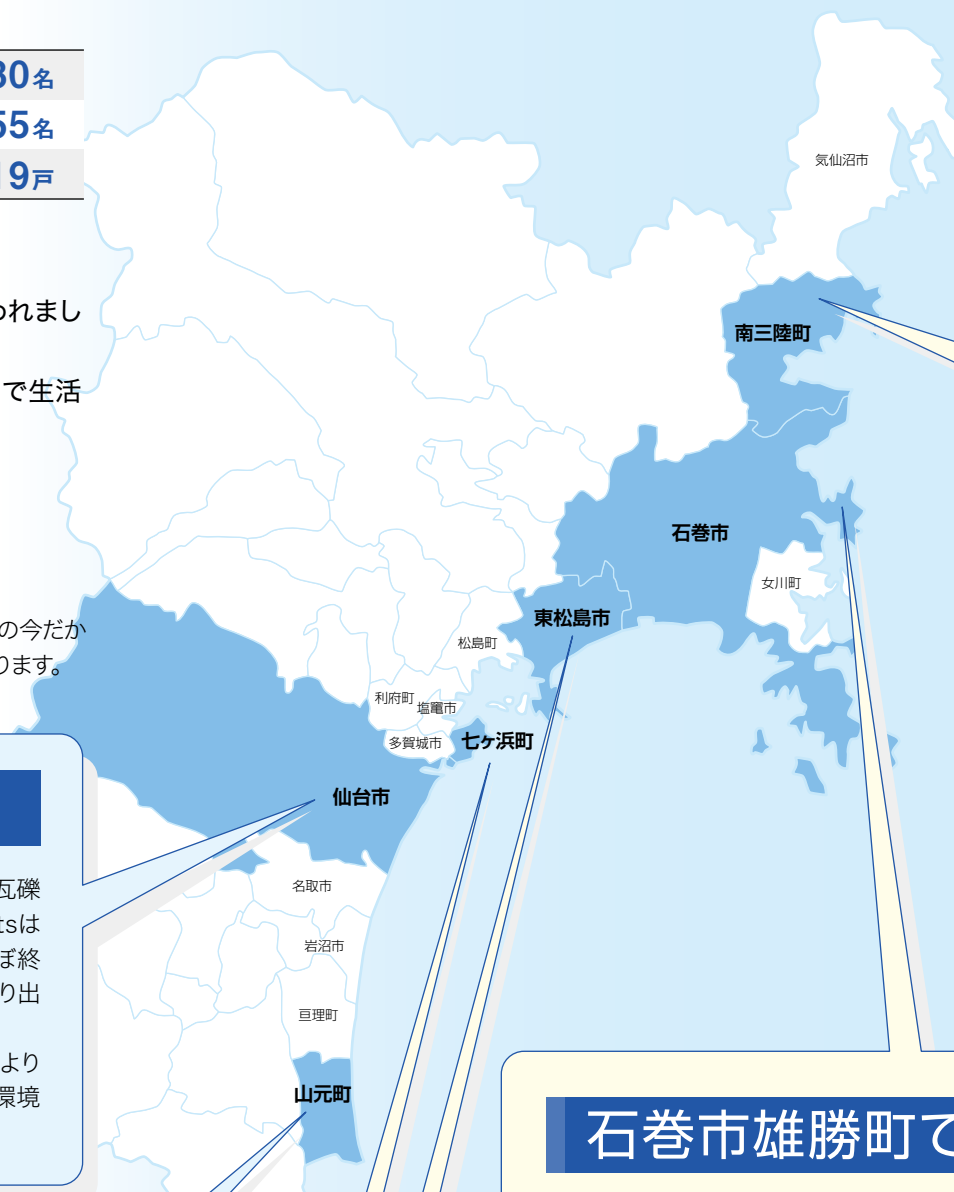


2014年8月、トマトの収穫を手伝うみまもり隊の活動

### 東松島市

東松島市では農地を含む広い範囲が津波の被害を受けました。高台への移転によって復興を進めています。移転先が完成した場所もありますが、大きな被害を受けた野蒜地区の北部丘陵では、造成完成(一部)は平成28年7月の予定です。

学内団体の「みまもり隊」は2011年から東松島の農家の支援に着手、現在でも農業支援の活動を続けています。



### 南三陸町

壊滅的な被害を受けた志津川地区にある防災庁舎、震災遺構として保存するかどうか議論されています。宮城県からは、県が管理して残す案も示されています。東北大学の団体では「All4Tohoku」が小学生向けのフットサル大会を開催しています。また、「復興応援団」は地元の農業・漁業を応援するツアーを開催。リピーターを多数呼び込み、地域の課題と魅力を伝えています。



保存が取り壊しか。議論の続く南三陸町防災庁舎(2014年2月撮影)

### 石巻市雄勝町での活動

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室では、石巻市雄勝町で定期的にボランティア活動を行っています。人口4,300人の石巻市雄勝町は、最大20メートルの津波が襲い、200名強の死者、8割の家屋が損壊、船がほぼ流出といった被害を受けました。また震災後は、多くの被災者が町を離れ、新たな生活環境で暮らしています。復興事業が完了しても、約1,000人しか住まないことから、今後のまちづくりをどう進めていくかも課題です。

このような雄勝町で、私達は三つの活動を行ってきました。まずは、地域を知ること。町に残った方がたは、地域のつながりを生かして復興に向けた取り組みをしてきました。そこで2014年の夏休みを利用して、各地域のリーダーから地域の課題や特徴について教えていただきました。

次は、一人ひとりに寄りそう活動です。雄勝町の方は、町に残っている/残っていないを問わず、震災で生活環境が大きく変化しています。そこで、雄勝町内外の仮設住宅での「足湯ボランティア」(月1回程)を通して、そうした方々の声をお聴きしています。

最後は、まちづくりを支援すること。雄勝町では、復興事業の遅れ等があってもなお、新たなまちづくり活動が生まれています。そこで、活動への参加を通して、微力ながらお手伝いしています。

雄勝町には課題が多い一方で、魅力にもあふれています。男性には世界を股にかけた漁師といった方も多く、グローバルな体験談がうかがえます。お母さん達はおしゃべり上手で、私が逆に元気をもらいます。またそのような方が営んできた地域の暮らしも魅力的です。課題も魅力もある雄勝町に、ぜひ皆さんも来てみてください。(松原久・文学研究科修士2年)



2014年2月 石巻市内で仮設住宅会長の話を聞く



2014年2月 雄勝町での足湯ボランティア活動



## 原発事故の影響

他の被災2県とは異なり、福島県では福島第1原発事故による被害が津波に加えて深刻な影響を与えています。震災による巨大津波は原発の冷却機能を喪失させ、複数の原子炉から大量の放射性物質が拡散しました。3月12日までに第一原発の周囲20km以内の地域に避難指示が出され、多くの人が県内外への避難を余儀なくされました。地震・津波による死者に加え、避難場所への移送中や、避難先での生活で健康を損ねたり、持病が悪化して亡くなったりした方(震災関連死。福島県発表では1,867名。直接死者数を上回る)も高齢者を中心に多くいらっしゃいます。事故以来、放射性物質の除去作業(除染)が続けられていますが、放射線量の高い地域は避難指示区域とされ居住が制限されており、現在(平成27年3月4日)も県内で71,774人、県外で47,219人の方が避難生活を続けています。

平成26年4月1日には田村市全域で、また同年10月1日には川内村の一部で避難指示区域が解除されましたが、人口流出などの従来から地域が抱えていた問題を悪化させ、その後の復興には多くの困難を抱えています。また福島県の産業、特に農業・漁業は、大きな風評被害を受けています。

## 支援の取り組み

震災以降、福島県でも多くの方が被災した方の支援に携わっており、復旧活動の手伝いや、仮設住宅での生活のサポート、子供を持つ家庭のための子育て・学習支援などが行われてきました。しかし、福島県で活動するボランティアの数は宮城県や岩手県に比べて少なく、現在も多くの支援を必要としています。

学生ボランティア支援室では、2013年から福島県でのスタディツアーの実施や、仮設住宅や復興住宅での足湯や手芸の活動や清掃ボランティア、子育て支援への参加、避難指示が解除された地域での復興支援活動などを行ってきました。



福島県産のお米は全量全袋検査され安全性が確認された上で出荷されているが風評被害に苦しんでいる(2014年9月撮影)



除染のため削り取った土砂等の仮置場(飯館村)。平成26年9月福島県は大熊町・双葉町への中間貯蔵施設受入れを容認(2014年8月撮影)

死者数(震災関連死含む)	3,695名
行方不明者数	3名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	97,983戸

福島県災害対策本部 平成 27年3月4日現在。  
本文中の関連死者数、避難者数も同資料に拠る

## 避難指示区域の概念図

平成26年10月1日現在(経済産業省発表)



原子力災害対策特別措置法に基づき、避難指示が出ている区域が「避難指示区域」です。現在、避難指示区域は「帰宅困難区域」(年間積算線量50mSv以上)・「居住制限区域」(年間積算線量20~50mSv)・「避難指示解除準備区域」の3つに分けられています。

## 東北大学生の取り組み

### 足湯・傾聴の活動

震災から4年近くたった今でも多くの方が仮設住宅で生活しています。これまで福島市、郡山市、いわき市の仮設住宅で足湯・傾聴ボランティアを行ってきました。また今年度はいわき市薄磯地区の復興住宅で足湯や教育支援も行いました。

震災から4年が経過し震災に関する話題は少しずつ減ってきていますが、まだ被災者の方々の心には震災の爪痕が残っています。このボランティアではそんな被災者の方々が抱えた思いを吐き出す機会となることを目的としています。参加者からは「実際に被災地の方と話すことができ貴重な体験だった」との声がありました。



いわき市内の泉玉露仮設住宅での足湯(2014年9月)

### 田村市都路地区での活動

福島県田村市都路地区では、2014年4月1日に避難指示が解除され、帰村が進みつつありますが、人口流失による過疎・高齢化に悩まされています。この地域復興を目的とした活動を現地の「復興応援隊」のアレンジで7月と11月の2回行いました。7月には帰村した後、3年間の留守の間に荒れてしまった庭を整備し地域の魅力にする活動で、庭を流れる川の整備(石積み)を行いました。11月には学生の視点から都路の魅力を探るため、応援隊の方の案内で、自然豊かな都路を散策し、住民の方々の話をうかがいました。その後、みんなで地域資源を生かしたまちおこしの方法について白熱した議論をしました。



田村市都路地区での小川の整備作業(2014年7月)

### 福島を学ぶスタディツアー

原発事故があった福島県は、他の地域とは異なった問題を抱えています。スタディツアーは、そうした状況を深く理解するために実施しています。2014年度は、東京から来た学生とともに川内村の食品検査場や、福島市内のお米の全量全袋検査会場や果樹園を訪問し、風評被害について学ぶツアーを行いました。またいわき市で津波被災の状況を視察したり、郡山市内にある「富岡町おだがいさまセンター」で事故発生当時の状況や現在の課題についてお話をうかがうこともあります。福島県内でも被害状況や線量の違いで状況が異なり、それぞれの復興の課題と必要な取り組みを学んでいます。



川内村の食品検査場を訪問(2014年9月)

### 仮設住宅の清掃活動

震災からまもなく4年を迎える中、仮設住宅の老朽化や汚れが目立つようになってきています。そこで東北大学では「NPO法人コースター」のご協力により、郡山市内で川内村の方が入居する仮設住宅のお掃除をするボランティアを夏休みと年末の2回行いました。あらかじめ掃除をしてほしいというご依頼があった方のお部屋に4人ほどで入らせていただき、エアコンのフィルターや換気扇など、普段はなかなか手の届かないところを掃除していきます。掃除が終わった後、入居者の方から様々なお話をうかがうこともでき、その点でも非常に勉強になる活動です。



仮設住宅内のエアコンのフィルター清掃(2014年12月)





# 学生

## ボランティア団体の紹介

8団体

※掲載はアイエオ順です

東日本大震災に関連した活動を行っている、東北大学生による学生ボランティア団体を紹介します。活動に参加してみたい団体があれば、4月のスタートアップフェア等で詳しく話を聞いてみましょう！

### 1 As One

代表: 高江 由香 (医学部3年)

私たちAs Oneは東北支援、海外支援、メンバーの居場所づくりをコンセプトに活動しているボランティア団体です。私たちはただボランティアをするだけでなく、支援する側とされる側が一つになって活動できるようになることを目指しています。私たちはこれまでに、東北支援では被災した家屋の修繕、仮設でのイベントの手伝い、復興応援グッズの販売、などを行い海外支援では貧困地域に行き住居を建築する活動を行ってきました。



E-mail: [tohoku.asone2013@gmail.com](mailto:tohoku.asone2013@gmail.com) TEL:080-3553-8532  
URL: <http://www.habitajp.org/CampusC/chapter/tohokudai/index.html>

### 2 東北学生震災復興支援団体 All for Tohoku

代表: 梶原 惟央璃 (農学研究科修士2年)

私たちA4Tは宮城県南三陸町の約20人の小学生を対象とした、フットサルやお鍋作り等のイベントを、震災以降全8回開催してきました。団体の現メンバーは他大学生を含めて7人で、イベント内容の発案から後援・協賛先への依頼連絡やイベント当日の運営まで幅広く行います。東北の未来を担う子どもたちに一緒に寄り添って成長を見守る新しいメンバーを募集しています。



E-mail: [all4tohoku@gmail.com](mailto:all4tohoku@gmail.com) URL: <http://a4t.lolipop.jp/outline>  
Facebook: <https://www.facebook.com/allfortohoku>

### 3 学習支援ボランティア キッズドア@東北大

代表: 松本 剛 (文学研究科修士2年)

経済的に困窮した中高生向けの受験対策講座や被災地の中学校での放課後学習会を通じて地域復興に取り組んでいます。地域復興には住民一人一人の活力が不可欠ですが、被災地では子供の学力低下が問題となっており、進路に不安を抱えた子供が多くなります。都市の子供の多くが塾に通い難関校へ進む一方、被災地の子供に与えられる教育資源は乏しいのが現状です。私たちは学生の叡知を結集し、この課題を解決したいと考えています。



E-mail: [tohoku@kidsdoor.net](mailto:tohoku@kidsdoor.net), [t-matsumoto@kidsdoor.net](mailto:t-matsumoto@kidsdoor.net) URL: <http://www.kidsdoor.net>, <http://kidsdoor-fukko.net>

### 4 TEDxTohoku

代表: 小田嶋 美咲 (文学部4年)

TEDxTohokuは、2011年の東日本大震災以後、仙台の学生を中心に組織され、「東北を創る人を増やす」という理念のもと活動しています。様々な分野で活躍される方々を登壇者に迎え、プレゼンテーションやパフォーマンスといった形で、それぞれの広めるべきアイデアを共有していただくイベントを開催し、その模様をインターネット中継やYouTube上のアーカイブを通して配信することで、国内外に向けて広く「東北発のアイデア」を発信しています。



E-mail: [mks0909dka@gmail.com](mailto:mks0909dka@gmail.com) TEL:080-1833-0016 URL: <http://tedxtohoku.com/>

### 5 東北大学地域復興プロジェクト "HARU"

代表: 今野 美実 (農学部4年)

わたしたちは現在、石巻で子どもたちの学習支援をおこなう「教育支援プロジェクト」と山元の仮設住宅で足湯カフェを開催する「足湯プロジェクト」の活動をしています。このほかスタディツアーの企画や大学祭での模擬店の出店、他団体との交流などもおこなっています。被災地のニーズに応えられるよう、地域に寄り添った復興のお手伝いを続けていきます。幅広い支援活動をしてみたい方、ぜひ一緒に活動しましょう。



E-mail: [koho@haru-tohoku.org](mailto:koho@haru-tohoku.org) URL: <http://tohokugakuseifukko.blogspot.jp/>

### 6 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか

代表: 小林 大一郎 (工学部3年)

岩手県陸前高田市の仮設住宅や復興住宅でボランティア活動を行っています。一般学生を交えたボランティアツアーを行うこともあります。被災した方々の集まる場をつくるための足湯・手芸などの活動がメインですが、地域の要望に応じて、陸前高田市の伝統行事、8月の「動く七夕」や正月の「とらまい」などもお手伝いします。月一回を目標に現地に行きますが、時間のあるときに自分のペースで活動できます。



E-mail: [tohoku.poca2@gmail.com](mailto:tohoku.poca2@gmail.com) BLOG: <http://ameblo.jp/poca-2/>

### 7 学生による地域支援団体 みまもり隊

代表: 佐藤 仁 (農学部4年)

津波の被害を受けた宮城県東松島市。今なお更地が広がる沿岸部にもかかわらず家々が立ち並び、たくさんの笑顔がありました。私達はそんな東松島を元気あふれる街にするため、地域産業を盛り上げ、地元の人に寄り添い共に楽しむことを目指し活動しています。定期的にはミーティングと農業を行っていますが、自分たちでやりたいことを見つけ実行できます。私達と一緒に楽しく活動しながら地域復興を考えてみたい方、お待ちしております。



E-mail: [mimamori.311@gmail.com](mailto:mimamori.311@gmail.com) URL: <http://mimamori311.wix.com/mimamoritai>  
Facebook: <https://www.facebook.com/mimamori.tai?ref=bookmarks>



## 8 震災復興・地域支援サークル ReRoots

代表: 岡村 拓輝(文学部3年)

2011年度より津波被災した仙台市若林区の農村地域で活動しています。「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトに仙台市内五大学の学生が集まり、地域に寄り添った活動、農業を中心に据えた復興を目指しています。農地に入った瓦礫撤去などの復旧作業にはじまり、復興段階に入った現在では被災農家の作った野菜の移動販売や、貸農園の運営、人の往来を作り出すツアーの企画などの多角的・継続的な支援を行っています。



E-mail: reroots311@yahoo.co.jp TEL: 022-762-8211 URL: http://reroots.nomaki.jp Blog: http://reroots.blog.shinobi.jp

## 3 M Leaders

代表: 吉田 香波

M Leadersは、松島への熱い思いを抱える学生から構成される地域活性化団体です。松島町と学生をつなぎ、地域活性化に取り組むことを目指しています。看板企画として、全国の学生に松島の地域活性化プランを考えてもらう「松島地域活性化プランコンテスト」を企画・運営しています。メンバーは、東北大学、東北学院大学、宮城大学の学生です。活動を推進するプラコン企画部門、どんぐりハウスプロジェクト部門、広報部門、経理・人事部門の4つの組織体制で活動しています。



E-mail: mleaders10@gmail.com URL: http://mleaders.wix.com/index  
 プランコンテストホームページ URL: http://tyouzcs.wix.com/matsushima Facebook: M Leaders twitter: @m\_leaders10

# 学外 のボランティア団体の紹介

14団体

※掲載はアイウエオ順です

東北大学生のボランティアが活動している学外団体を紹介します。  
 こちらも参加したい活動があれば、4月のスタートアップフェア等で詳しく話を聞いてみましょう。

## 1 特定非営利活動法人 アスイク

代表理事: 大橋 雄介

アスイクは、震災で被災したり、経済的な事情を抱えた子どもたちに寄り添ってくれる学習支援ボランティアを募集しています。「学習支援」といっても、ただ勉強を教えるのではなく、学校での生活や将来などについて、子どもたちと楽しく会話することも大事にしている活動です。「週1日から、ムリなく」が原則なので、学業とも両立可。これまで400人以上の大学生や社会人たちが参加しており、ボランティア同士の交流も充実しています(交通費実費支給)。



E-mail: info@asuiku.org TEL: 022-781-5576 URL: http://asuiku.org

## 2 @plus

代表: 齊藤 柁(東北大学工学部3年)

私たち@plusは「ボランティアを身近にする」という理念のもと活動しています。海岸ゴミ拾い清掃・児童館ボランティア・街中でのゴミ拾いパレード・仮設住宅清掃など、ジャンルを問わず様々なボランティアに取り組んでいます。ボランティアしたいけど一歩踏み出せない。そんな学生と共に活動し共に考えることで主体的な学生を増やし、学生の力が社会に還元されプラスになることを目指しています。



E-mail: aplusvolunteer@gmail.com URL: http://aplus1234.web.fc2.com Twitter: @a\_plusvolunteer

## 4 一般財団法人 学習能力開発財団

理事長: 畠山 明(担当: 田中)

震災で遺児・孤児になられた方への無料学習支援。弊財団の学習支援は、一人ひとりにしっかり寄り添うマンツーマンの学習支援です。受験対策という側面だけではなく、喪失体験のある子どもたちの隣でしっかりと心を支える役割もあります。ボランティアの学生さんは月に1度報告会にて、指導ノウハウや心のサポートについて専門知識を学ぶことができます。授業前研修として、受験情報や授業の進め方など事務局のスタッフが丁寧にサポートいたしますのでご安心ください。



TEL: 0120-001-296 E-Mail: info@lead.or.jp URL: http://www.lead.or.jp  
 住所: 宮城県仙台市青葉区国分町2-13-21-5F

## 5 認定特定非営利活動法人 カタリバ

代表理事: 今村 久美

2001年の設立以来、子ども・若者への教育活動を行ってきました。東日本大震災被災地では子どもたちのための放課後学校「コラボ・スクール」を宮城県女川町と岩手県大槌町で運営しています。学生ボランティアにはサポーターとして授業に入ってもらい、小学3年生から高校3年生までの幅広い年代の子たちに、少人数(6~10名程)の習熟度別クラスで授業をしてもらいます。自習室運営や教材作成、教室レイアウトなどもやっていただきます。学習指導経験のないボランティアもたくさん来ています。



コラボ・スクール担当: 長濱雅徳 TEL: 080-4149-3311 E-mail: m.nagahama@katariba.net  
 facebook「NPOカタリバ」 https://www.facebook.com/katariba?ref=ts HP「コラボ・スクール」 http://www.collabo-school.net/volunteer/

## 6 こども☆ひかりプロジェクト

代表: 清水 文美

全国のミュージアム(博物館、美術館etc...)で東北の子どもたちを元気づける「こども☆ひかりプロジェクト」。東北大学生ボランティアも活動しています。主な活動はミュージアムのワークショップを集めたイベントや、ママパパ向けのフリーペーパーづくり、その他研修や研究会など。子どもたちの笑顔に会えることはもちろん、他大の学生や学芸員の方との交流も魅力の一つです。学部や経験は問いません。まずはスタートアップフェアでお会いしましょう!



東北大学担当: 三上響(教育学部3年) E-mail: kanagoose@yahoo.co.jp TEL: 090-2190-8518  
 URL: http://www.kodomohikari.com



7 特定非営利活動法人  
チームレスキュー

代表理事: 小野 聡美

私たちは、主に石巻市において、大川小学校内外の環境整備及び警備活動などを行っています。東日本大震災のみならず、大きな自然災害が起きた全国の各被災地において災害支援を行う団体です。現在では、社会福祉協議会の信頼を得て学生・一般・企業ボランティアの方々とまとめる現場リーダー・統括も行ってまいります。また、石巻市での活動隊員の募集も行っていますので、ご興味のある方は当団体のメールアドレスまで、ご連絡ください。



E-mail: teamrescue.center@gmail.com URL: http://teamrescue.jimdo.com/

8 特定非営利活動法人  
パクト

代表: 水野 朝紀

パクトは東日本大震災を受け、2011年7月に、地元の若者や全国から駆けつけた有志により結成された、地元発の復興支援団体です。子どもの居場所づくり活動、「みちくさルーム」の実施や、市内の子どもに対する包括的な支援、ボランティアの受け入れ窓口、「陸前高田市復興サポートステーション」の運営の他、廃校を利用した簡易宿泊所、「二又復興交流センター」の運営(市の指定管理)を行っております。



E-mail: p@ct311.org または child.p@ct311.org (子ども支援専用メールアドレス) URL: http://pact-rt311.org TEL: 0192-47-4977

9 ピコせんサポーター

代表: 齋藤 まゆみ

私たちは毎年、こどもがつくるまち「Piccoliせんだい」という、子どもだけでまちを作って生活するイベントを開催しています。イベントを通して、子どもたちに「人の役に立つ喜び」を感じてもらうことをテーマにしています。今年の「Piccoliせんだい」は9月開催! イベントの企画運営や子ども会議のサポート、広報活動などにかかわってくれるサポーターを募集しています。ぜひ一緒に活動しましょう!



E-mail: piccolisendai@gmail.com URL: http://picosen.webcrow.jp/ Facebook: http://www.facebook.com/piccolisendai

10 一般社団法人  
ピースボート災害ボランティアセンター

代表理事: 山本 隆

ピースボート災害ボランティアセンターでは仮設住宅向け情報紙発行や漁村留学のボランティアを募集しています。「仮設きずな新聞」を月2回発行し、市内の仮設住宅全戸に配布しながら、住民さん一人ひとりと向き合い、時間をかけてお話をすることにより、引きこもりや孤独死を一人でも減らしたいと考えています。また漁村留学「イマ、ココプロジェクト。」では一週間、漁師さんのお宅や地域の会館で寝泊まりし、浜での生活を体験しながら漁師さんのお手伝いをしていただける方を募集中です。



E-mail a-iwamoto@pbv.or.jp TEL: 0225-25-5602 URL: http://pbv.or.jp/ Facebook: http://www.facebook.com/PBVsaigai

11 一般社団法人  
復興応援団

代表: 佐野 哲史

私たちは南三陸町と多賀城市で、地元の人々が中心となった復興のために活動しています。そして、地域のことが好きで何度も足を運び、長期にわたって地域を支えてくれるような人・コミュニティを生み出し、復興とまちづくりに立ち上がる大きなうねりを起こそうとしています。南三陸では地元の担い手を応援するツーリズムプロジェクト。多賀城市では毎月作成している広報紙の配布と地域の方とのコミュニティ作りのお手伝いをしています。



E-mail: tanookataiki@gmail.com (学生スタッフ 田ノ岡) TEL: 0226-25-9897  
URL: http://www.fukkou-ouendan.com/ Facebook: https://www.facebook.com/fukkououendan

12 宮城学生ボランティアユニオン

代表: 高橋 優希

宮城学生ボランティアユニオンとは2012年末に結成されたインターカレッジサークルです。宮城県内の学生同士のボランティア活動の連携を図り、それぞれが目指す復興に向かうために設立しました。主な活動は宮城県登米市南方仮設住宅での月に一度の学習支援とイベント企画です。また仙台市環境局によるE-actionという環境推進事業に参加し、ゴミ拾いやエコ活動などに取り組んでいます。その他、様々な分野で活動しているので、ぜひ一度、参加してみてください!



E-mail: msuv.hq@gmail.com URL: http://msuv.jimdo.com/

13 宮城復興支援センター

代表: 茂木 秀樹(ボランティア担当者: 岸)

私どもの活動の一つとして子どもたちの心のケアを目的にした「国際交流イングリッシュキャンプ」がございます。大自然の中で、参加小学生約100名・外国人ボランティア約25名・国際交流に興味のある日本人ボランティア約10名と、1泊2日のキャンプを行います。英語と日本語を交えながらボランティア同士の国際交流ネットワークも広がります。楽しく学びのある2日間の食費・宿泊費・交通費は無料です。皆様のご参加をお待ちしております!



E-mail: volunteer@gakuwarinet.com TEL: 022-398-9148 URL: http://www.ganbaro-miyagi.com/camp2015/jp/

14 一般社団法人  
ワカツク

代表理事: 渡辺 一馬

被災地や地域企業の課題解決の現場と学生をつなぎ、学生のチャレンジを応援するのがワカツクの仕事。学生のボランティア活動を支援する日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)東北を立ち上げ、宮城の学生団体と連携して学生向けのイベント企画や、ボランティア団体と学生をつなぐサポートなどを行っています。学生ならではの挑戦がしたい人やイベントを企画してみたい人、Gakuvo東北スタッフとして活動してみたい人はワカツクまで!



E-mail: info@wakatsuku.jp TEL: 022-721-6180 URL: http://www.wakatsuku.jp  
いくする仙台WEBサイト http://igusuru.com 住所: 宮城県青葉区北目町4-7 HSGビル3F